

足立区基本構想審議会 第3回子ども専門部会 会議録

日 時 平成 27 年 10 月 26 日（月曜日） 午後 2 時から 4 時

場 所 足立区役所中央館 8 階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会 子ども専門部会委員（10 名）

村上祐介委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、志自岐亜都子委員、早木美恵委員、渡辺ひであき委員、岡安たかし委員、鈴木けんいち委員、定野司委員

事務局：政策経営課長、基本構想担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

オブザーバー：教育次長 1 名、学校教育部 3 名、政策経営部 1 名、子ども家庭部 6 名、地域のちから推進部 1 名

議題等 1 意見交換

（1）将来像 まとめ

（2）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念） まとめ

2 事務連絡（次回の予定）

資 料 【資料 子⑤】子ども専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

基本構想担当課長：皆様こんにちは。お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会第3回子ども専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日のオブザーバー出席ですが、教育次長・学校教育部・子ども家庭部・地域のちから推進部・政策経営部の職員です。よろしくお願いいたします。それでは村上部会長に進行をお願いしたいと存じます。

村上部会長：皆様こんにちは。お忙しい中をお集まりくださりましてありがとうございます。今日は3回目ということで、専門部会は今日で最後となります。将来像と基本理念のまとめの作業・審議をするわけですが、ドキドキしているのですが最後は何かかなっているの、今日もうまくまとめられればと考えております。では、審議に入りたいと思います。まず、配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きましてA3版の資料子⑤と表示の子ども専門部会課題整理及び将来像等検討シートです。これは前回配付のものを内容を更新したものです。続きまして、資料番号のないA3版の第1回子ども専門部会のまとめというものです。これも前回配付のものに追記等をさせていただきました。続きまして、足立区基本構想審議会の12月以降における開催案内。これは委員の皆様ですが、ご多忙の折恐縮ですが、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。最後に委員の皆様には参考として、前々回、及び前回の会議録を配付してございます。前々回が29ページ、前回は27ページです。

1 意見交換

村上部会長：では、次第の1番の意見交換についてということで、まず、それに先立ちまして資料について事務局からご説明をお願いします。

基本構想担当課長：最初にA3版の資料子⑤と表示の子ども専門部会課題整理及び将来像等検討シートをご覧ください。前々回・前回と意見交換をしていただいた内容を元に、ご意見等を整理しましたが、一番下に区民あだちサロンや中高生ワークショップで出された補足となるような意見も加えさせていただきました。部会としての将来像、これは区のあるべき姿。そして基本理念。これは将来像を設定した根本となる考え方。これらを本日まとめていただくための案をたたき台としてお示ししたものです。なお、将来像や基本理念については、12月以降の全体会で、他の専門部会の案と改めて調整や取捨選択等をしていくことになりますので、本日もしも固まりきらなかった場合としても、最低でもこのキーワードや考え方は重要というような点を残していただきたいと思います。全体の内容については、後ほど株式会

社地域計画連合より説明をさせていただきます。そしてこの資料子⑤についてですが、本日のご審議の後に再度更新することにはなりますが、意見交換の内容を区民の皆様にも知っていただくため、基本構想審議会の中間報告のようにしてホームページ上で公開したいと存じます。時期は四つの専門部会が揃う11月下旬以降を予定しております。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

続きまして、資料番号のないA3版第1回子ども専門部会のまとめをご覧ください。委員の皆様からの各意見に関しての区の取り掛かりの状況を、左上の記号で表示したのですが、前回の段階では間に合わないものがございまして申し訳ありませんでした。今回追加や修正した記号は四角囲みをして表示してございます。例えば左上の若い世代を惹き付けるというグループの中にある、保育料が安いと若い世代が集まる、という意見に対してバツになっている件は、現時点では値下げ等の検討は行っていないためです。次に右下の連携というグループの中にある、学校に余剰空間を作り交流を生む、がお手元ではバツになっておりますが、この場で訂正させていただきますと思います。バツではなく丸。取り組む予定であるにさせていただきますと思います。地域活動目的等のスペースはこれまでもございましたが、少しその辺を狭く捉えていまして、今後地域コミュニティの核として、学校の役割ということもございしますので、ここは検討していく状況になっております。なお、全体的には二重丸の既に取り組んでいるという項目が大多数ですが、まだまだ課題解決に向けて取り組み続けていく必要がある状況でございしますので、今後も区の方で取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、資料ではございませんが、この場をお借りして、若年者の非正規雇用者比率について事前にご質問をいただきましたので、回答させていただきます。非正規の比率については、検討素材においては全国が緩やかな上昇傾向。そして、足立区の場合は事務局が試算したところ30.9%になると前回お示ししました。ご質問は、これらの数値を示した目的は何か。また目標値はあるのかということでした。目的といたしましては、貧困の連鎖を断ち切る上での直接的とまでは言えないものの、関連性のある数値と捉えましたので、議論の参考にさせていただく意味で紹介させていただきました。ただし、これの数値が高いのか低いのか、他区はどうかとまでの評価が不十分だったため、その点につきましてはお詫びさせていただきます。目標値については特に設定しておりませんが、既に皆様方からご議論をいただいている通り、一人親家庭のサポート、子どもたちの学力向上・職業教育・中途退学擁護など、これらに取り組むことによって貧困の連鎖が断ち切られ、波及として非正規の比率も下がってくるものと存じます。

それでは、資料子⑤について、株式会社地域計画連合より説明をさせていただきます。

地域計画連合：こんにちは。では、早速ですが、前回の振り返りからご説明します。まず、前に掲示してある2枚の模造紙。こちらが第1回の子どもの部会で話し合われ

た内容です。こちらは右手側にございますこちらが、第1回の学校に関する課題について議論が少なかったということで、前半はそのあたりを中心に課題について議論をいただきました。その時に出されのが、例えば学校に行けない子がいる、これが問題なのではないか。家庭の事情で登校出来ない子がいるというお話を、具体的な事例を挙げてお話をいただきました。また繰り返しになったのですが、高校中退の問題。そういった話もございました。また新しい視点としましては、先生の多忙が負担になって、子どもに向き合える学校教育が出来ていないのではないかというお話がございました。その他、部活動というものも子どもの教育の面では非常に重要な環境であること。あとは学校の規模や広さのあり方。あとは正職員でないスタッフの必要性、そういったものも出されました。また、行政とのつながりでありますとか、高校を中退すると行政の手が届かなくなるといったお話がありました。こちらの内容につきましては、皆さんのお手元にある資料⑤の左側。子ども専門部会の課題とございますが、こちらの中で赤い字が追加したところになります。もともと黒い四角で6点課題を挙げていたのですが、一つ上から五つ目。赤い四角がございます。教師の過度な負担を減らし、子ども一人ひとりに向き合う時間を増やすことが求められている。これは一つ大きなくくりとして加えた他、この中に入っている内容は、中に盛り込めるものは箇条書きのところに少し文言を増やしているという状態です。

前回の後半は、右側になりますが、模造紙は左側で申し訳ないのですが、足立区のあるべき姿、将来像についてご検討をいただきました。第1回が終わった後に事務局案として将来像を何点かお示しをしていたのですが、子ども部会ではまた新しいコンセプトをいろいろ出していただきまして、全面的に今回修正を加えております。今の状態はこちらに前回出していた言葉を出来るだけ広く拾い上げて、それをどこかに読み込めるような形で今回整理させていただいたのがこの右側の赤字の部分になっております。

少し振り返りをしますと、まず、一つ目の将来像につながる場所は、多様性を大事にし、一人ひとりの子どもの生きる力を育むまちというのが、一人ひとりが輝くであったり、多様性を大事にする、こういったところが踏まえられています。2点目は、地域が網の目のように結び付き、子どもたちを支え育むまち。こちらは地域で育てる、みんなで支える、こういったところから拾い上げています。3点目は、子ども時代から社会人まで一生暮らせるまち。これは自分の居場所があったり、夢や希望を叶えられる、そういったところから、子どもから大人までずっと住めるそういったイメージをこちらで描いています。4点目が親が楽しく子育ての出来るまちということで、こちらにあります子どもを支えるだけではなく、子育てする親側も支えて、しかも楽しい子育てにすべきではないかということで、こちらを一つ取り上げています。最後に、子どもを第一に考え、子どもにとっての最善を目指すまちということで、こちらは子どもにとって最善がやはり大事であると。子どもは宝であると、そういったことを発言されていたので、5点目にそちらを掲げ

ています。

こういった将来像のお話をしていただいた中で、その根本にある基本的な考え方は何だろうと言った時に、皆さんの中でやはり多く言葉が聞かれたのが多様性ということ。その多様性を受け止める。誰でもが可能性がある。そういった意味で多様性を一つ理念の方に挙げています。また、子どもは地域の宝でもありますし、子育てを地域で支えるという意味で、地域力ということを二つ目の基本理念に挙げさせていただきました。その他、基本理念の候補として、例えば関わり合いとか助け合いとかつながり、そういった言葉も見られましたので、候補として挙げております。今日はこちらをブラッシュアップしていただく会議としてご議論いただければと思います。

参考までに、下の方に区民足立サロン、及び中高生ワークショップで描かれた課題や足立区の将来像を記載しています。こちら、主に中高生ワークショップで出している、子どもたちが考えた足立区の将来像の中から、子ども部会にふさわしい言葉を少し拾い上げて掲載しております。ぜひこちらも読み込んだ形で検討をいただければと思います。

村上部会長：ありがとうございました。今までの事務局からの説明、そして前のホワイトボードやお手元の将来シートの説明について何かご質問等ありましたらお願いいたします。

鈴木委員：単純なことなのですが、一人親家庭へのサポートがありまして、その中の二つ目に就学援助に関して書いてあるのですが、他自治体よりも一人親の増加、就学援助が多いことに対してバツとなっているので、これはどのような意味なのか。取り組み予定はない、終了という意味になるのですが。

基本構想担当課長：就学援助が多いことに対してバツということについてですが、今のところ基準の改正等は考えていないということでのバツです。終了ではなく検討をしていないという回答を得ています。

村上部会長：事実関係等でもし今日審議をする上で聞いておきたいことがあればお願いします。ないようでしたら、議論の中で必要があればご質問をいただいても結構です。

志自岐委員：将来像のあるべき姿のところなのですが、楽しく子育てが出来るまちということで、前回楽しくというのが出たのですが、子育てしやすいではなくて、子育てが楽しくなるとおっしゃったのですが、突然楽しく、子育てが楽しいという言葉が出たのですが、イメージが全く湧かないのと、個人的に言うと楽しいか楽しくないかって、割と個人的なことで、行政が扱う場合にどのような形で楽しく子育て

てが出来る形になるかが少しイメージがつかめなかったもので、ここは議論が足りなかったのかなと思います。

村上部会長：今のところは回答を今事務局からというよりは、審議の中で委員の皆さんでどのようにするか考えていただくところだと思います。貴重な問題提起として、今日どのようにするか考えてみたいと思います。

今日 1 時間半ぐらい掛けて将来像と基本理念のまとめをするわけですが、基本理念というのは、将来像を議論する中で出てくると思うので、最初の 1 時間ぐらいは将来像を。先ほど志自岐委員からご提案がありましたが、将来像、あるべき姿というところを、今にお手元にある資料をベースにしてどのようにするかをご議論をいただいて、残りの後半 30 分ぐらいでそれをベースに基本理念でどのような言葉を考えるかを議論していければと思います。もちろん議論の中で両方、将来像と基本理念の両方にまたがる話が出てくると思うのですが、そのところはあまり気にせずに、目安としてそのような形で、まず、将来像のあるべき姿について議論を進めて、その中で基本理念を考えるというスタイルで議論を進めていきたいと思います。

その時に考えていただきたいと言うか、重点的に見たい、議論したいというポイントが二つあります。一つは先ほど志自岐委員からご意見が出ましたが、この将来像が今五つ出てきていますが、これが皆様方の思いが反映されているかということですね。例えばこのような言葉が五つの中に入った方がよいのではないかとか、このような趣旨のことが入った方がよいのではないかと。あるいは、先ほど出てきたように、この言葉というのは少しイメージが湧きにくいので、考えた方がよいのではないかと。こうした方がよいのではないかとか、考えていただきたい一つ目は将来像のあるべき姿について、この五つに更に何か加える要素があるかとか、あるいは修正すべき点があるかということです。

二つ目は、この将来像についてはこれは基本理念もそうなのですが、後で他の部会と一緒にして、取捨選択とか混ぜていきながら一つのものにしていきます。そのため、この専門部会としてここは重点事項であるという理由で大事なので、この将来像とか基本理念についてここはやはり子ども専門部会で特に強調したいところがあるかもしれないものが出てきましたら、それはやはり専門部会として全体に反映させていくべきことだと思います。あとは子ども部会の議論も、やはり全体の中で活かす上では、重点的にというポイントがはっきりするとそれはよいかなと思います。もし専門部会の中でこのようなところをより重点的に、このような理由で重点的にすべきだというようなことがありましたら、それをご意見として出来る限り反映していきたいと思います。少し説明が長くなり恐縮ですが、今日は将来像と基本理念。これは最終的には全体会でまとめるので、一言一句確定させる必要はないと思います。皆様方の思いが入った将来像と基本理念というものをここでまとめるということです。

その際に、今書いてあるもので本当によいのか。すべて反映されているのかとい

うことと、それから重点的にどのようなポイントをこの部会として掲げた方がよいのかどうかということをご議論いただければと思います。

付け加えて、先ほど事務局から非正規雇用者比率に対する回答がありました。これなかなか数値目標というのは外的な活動であるので、一つの数値目標というのはなかなか困難なことだとは思いますが、区にとってやはり貧困の連鎖を断ち切っていくこと自体は非常に重要だと思います。この資料子⑤の左上ですね。今ずっと右側の話をしてきたのですが、左上に貧困の連鎖を断つために子どもの貧困を解決する取り組みが求められているとか、あるいは若い世代の自立・活躍出来るような取り組みが求められているとか、そのような議論がありますので、これはもちろん子ども部会でも重要なところでもあると思うのですが、区としてもやはりこれらを踏まえて取り組んでいただく必要があると思います。もちろん景気にかなり左右される話なので、なかなか単一の数値目標というのは難しい面があって、つまり区の外的な環境に制約される面が強いことは多いのですが、ここでやはり区でもそういった取り組みをぜひ進めていただきたいと申し上げておきたいと思います。

(1) 将来像まとめ

村上部会長：では、議論に入ります。将来像ですね。もちろん基本理念のところに触れていただいても結構ですが、将来像について、このようなところをもっと反映すべきとか、ここは少し表現を考えた方がよいのではないかとか、今志自岐委員からもそのようなお話が出ましたが何かございましたらどなたからでも結構ですのでお願いします。

野辺委員：今志自岐さんがおっしゃったところですが、足立で子育てをする親が地域と交流することでということですが、これは親の方で楽しく子育てがしたいということが前提になっている話し方だと思います。実際に子ども会などは子育てを楽しめるようなまちを作ろうと一生懸命やっているところなのですが、それを拒否する親が多いということで、町会なども60%ぐらいというのはそこから来ているのだと思います。子ども会もやはりそれと同じように、参加する親も減ってきているということは、親の方が楽しいまちづくりや子育てをしようと思っている人ばかりではない。かえって多い。それこそそう思わない親が多いところが問題なのだと思います。そこから掘り下げていかないと、その言い方だと難しいと思います。

村上部会長：今の点についてどうぞ。

定野委員：多分この間の議論の中でも親の問題、あるいは家庭の問題はたくさん出てきましたが、それをストレートに書くと込み入ってしまうので、裏から書くところといった楽しく子育てが出来るという表現なのだろうと感じています。例えばこの

間の議論の中でも、一人親の貧困率はもっと高いわけです。6割とか。だから一人親を作らないとは書けないではないですか。だとすると、楽しく子育てが出来るというのが家族観とか夫婦観とか親子観とかそういったものを包含したようなイメージに取れば取れるだろうと。それを書いたのではないかと解釈したいと思います。少し優しすぎますか。

小林委員：楽しく子育てが出来るところで、その一步手前で安心してとか安定してとか、何かそのような文言が入るとより責任と言うか、区で出来るところが出てくる気がします。

村上部会長：今のは確かに腑に落ちると言うか、確かに重要なご指摘だと思いました。この点について、親が楽しく子育てが出来るまちというところで議論を進めているのですが、いかがでしょうか。安心・安定というものを表現として入れてはどうかというご意見がありました。これは個人的に違いがあるのか分らないですが、楽しく子育てが出来るまちというのと、子育てを楽しめるまちというのは変わらないのでしょうか。ニュアンスとしてどちらがよいのだろうと思ったのですが。

河本委員：親が楽しく子育てが出来るまちの下の文章の中に、例えば子どもと一緒に親も育つという要因が、子育てを介しながら親も一緒に成長していくというニュアンスの文章が入るともっとよいと思います。

村上部会長：ありがとうございます。まとめの時に入れてもよいかなとも思います。

早木委員：先ほどの安心・安定という文言を入れた方がよいのではないかという意見は、とてもよいと思います。安心・安定と言うと、今国レベルとか問題になっている子どもの貧困という問題を足立区が先駆けて対応しているということで、やはりそのような助けが必要な人たちが助けを求めて受け入れてもらえるということがあることを知ることが大事だと思います。行政がこのようなことをしていますよということを伝えることは、安心・安定という言葉に含まれるのではないかと思います。

村上部会長：ありがとうございます。やはり安心とか安定という子育てのところににかかわってそれは大事であるというご意見でした。

鈴木委員：私も安心してとか安定してという言葉が入ると、だいぶ良くなると思います。それでその上で、結局これ親が楽しいかどうかということになっていると思うのですが、やはり根底には貧困だと楽しくないという面もあるし、実際に働いている親御さんが多くなって、なかなか保育園に預けられないとか、預けた保育園が

少し心配だとか、あるいは保育料が高すぎるとかという、なかなか楽しいとは言えないという問題にもつながってくると思います。小学校・中学校になれば、いじめがあったり不登校があったりすればこれはとても楽しいとは言えないということです。

後でお話をしようと思っていたのですが、この将来像が多様性を始めとしてよい方向があるのですが、しかしその中に含まれているものは、実際にどのようにしてやっていくのかなというのが見えないと、理念に走りすぎると言うか、理念だけで終わってしまう気もします。その辺が少しあります。ですから、楽しいだけでは、楽しく出来る何でしょうか。子育てが出来る環境をどのようにして作っていくかというのが、何か入るように。何が楽しいかはいろいろあると思うのですが。

あともう一つ言うと、親が楽しいというのもあるのですが、子どもが楽しいのが大事だと思います。学校が楽しいというのもあるのですが、例えば足立区では子どもたちが参加して遊びを作ったりしていますが、そのような自分が参加して楽しいと、自分のアイデアが選ばれて楽しいとか、そのような参加型のまちと言うか、そのようなものなどももし含められれば含めて、何か表現していくと、親が楽しく子育てが出来るまちというのが生きていくと思います。

村上部会長：ありがとうございます。今ご意見がありましたが、親が楽しいだけではなくて、子どもも楽しいという要素を入れるということと、あとはどのようにしてこの将来像を進めていくのかというところが少し入るとよいのではないかということで、これはなかなかよいアイデアがあればぜひ入れたいと思うのですが、これをどのようにしていくかということは考えていくと。これ、多分主語は区と区民だと思いますので、区と区民が何をするのか。何をすれば進めていけるのかというのがどこかに入れられるとよいなと思います。

渡辺委員：将来像・基本理念の案の五つの項目については、先ほど来それぞれの委員からご指摘があるように、文言の整理をすると非常によい形になると思います。

一方で、やはりこの部会の中でさまざまな委員から出てきた育児に対するノイローゼであるとか、一人親家庭に対する考え方であるとか、それから孤立ですね。相談出来る方がいない方々。それは子どもで言うと、いじめに遭っている子どもたち、引きこもりをしている子どもたち、そうしたことについてはこの将来像のあるべき姿とは別に、付帯としてしっかり子どもの貧困対策元年ということですから、そうした一項目を求めて、それに寄り添う足立区というイメージを一つ入れておくことが、問題から逃げないという意味でも大切だと感じました。

村上部会長：今のご指摘は、将来像に直接1項目としては立てないけれども、全体の精神としてそういったものがあるということが確認をしておきたいという趣旨でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

渡辺委員：それからもう一つ。鈴木委員からあったご意見については、基本構想が出来た後、基本計画の中で具体的なことについては区や議会でも当然責任があって、その中で網羅をしていくということだと感じています。

村上部会長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

岡安委員：この5項目の一番上の多様性を大切にし、というこの3行。ここはかなり5項目の中のすべてを網羅した言葉に私は感じています。今いろいろ議論があった話も、言ってしまうと一人ひとりの多様な状況・状態のご家庭であったり親であったりお子さんを、すべてを大切に、その状況の中で育んでいくという包含したような表現なのではないかと思います。そうは言っても、やはり具体的な文言をつづっていく大切さということで、私はここにやはり障がい児ということで、足立区の場合学校が多いから子どもも多い、その分やはり障がい児も多いわけですし、発達支援も含めてノーマライゼーションの理念と言うか、そのようなものもうたえたらなと思います。

先ほど来議論がある親が楽しく子育てが出来るまちで、安心・安全というのは本当に大賛成です。ただ、この下の2行、地域のかかわり、ここが非常に難しいなと思ったのが、地域というのはどこまでを地域と言うのか。足立区全体なのかによっても違うのですが、どうしても普通地域と言うと、私は青井ですが青井3丁目とかですね、都営住宅に住んでいれば都営3丁目アパート、その自治会のようなイメージで捉えられるのですが、先ほど委員がおっしゃったようになかなかそのようなところでないところと交流がしたいと。地域を望まない方もいらっしゃると思います。DVで避難されているご家庭もあります。そのような中で一般論としては正解な表現だと思いますが、本当に個別にこれを区民が読んだ時に、地域の多くの人に関わられると思う人もいるのではないかと思います。その辺の配慮が違う表現で出来るのか、これは私には分からないのですが、一つ問題提起としてさせていただきたいと思います。

村上部会長：ありがとうございます。今も非常に貴重なご指摘で、障がい児とかノーマライゼーションの視点ということですね。これはもしかすると障がい児と外国人の児童・生徒といった話も入ってくるかもしれません。それからもう一つが、地域単位で考えるのかということで、これは足立区独特と言うか足立の中でも違うでしょうし、どうするかは難しいのですが。例えばその地域以外ということを含めるという意味で言うと、例えば四つ目にある親が楽しく子育てが出来るまちのところは、地域の多くの人とありますが、例えば地域を始めとした多くの人とか。あとは地域と交流するということは、地域やさまざまな人々と交流するとか、表現で地域以外を取り込むことは可能だと思います。

小林委員：子ども時代から一生暮らせるまちということで書いていただいているのですが、ここに大人になっても住めるということで真ん中にあるのですが、ただ住むだけなら出来るので、やはり自立して住むとか、あとは自立して活躍出来るとか。自立だけでは物足りないということで、足立区で主体的に活躍していただきたいといったところのニュアンスが取り込めたらと思います。

志自岐委員：いろいろあるのですが、五つ目、最後は何かあるべき姿と言うよりは、決意的な感じで、具体例がどうこうという話と言うよりは、足立区としてこのような決意で行くぞというものなので、これは具体例はほとんどないのではないかと思います。

あとは多様性のところなのですが、子ども一人ひとりの多様性というものに合わせるということもあるのですが、教育そのものの多様性とか多重性とかチャンネルを増やすとか、今学校だけで教育されている子どもなんてほとんどいないわけで、みんな塾に行ったり習い事に行ったり、そのようなものも足立区の中のいろいろな子どもの教育なのですが、心の教育などというのは、例えば学校で道徳を教えてどうこうではなく、何かもう少し違う形で、学習塾でもないし、そのようないろいろな教育のチャンネルにアクセス出来ると言うか、そのようなことも、それは区でやるのか、そのようなことをやっているところを支援していくのか微妙なところがあるのですが、多様な子どもに対応していくという意味もあるし、教育そのものをもっと多様化していくと言うか、そのような視点もある気がしています。

村上部会長：今お二人からご意見をいただいたのですが、志自岐委員のご指摘は、多様性の中にこの五つの表現だと子どもの多様性のようなイメージなのですが、そうではなくて、基本理念のところには多様な手段ということも書いてありますが、教育の機会と言うかチャンネルの多様性とかですね。私自身も思っていたのは、子どもを育てる場の多様性と言うのでしょうか。それも入っていないなという印象があったので、例えばさまざまな環境の親がいますし、地域も多様ですし、そういった育てる側の多様さも含めて、その一人ひとりに目が届くような行政を目指すというようなところがあってもよいと思いました。多様性というところが、もう少し子どもの多様性だけではなくて、教育機会の多様性とか、育てる側の多様性とか、そういったことも含めていただいた方がよいかもしれません。

野辺委員：最後の子どもを第一に考えというところですが、読んでいるとすばらしいのですが、あまりに漠然としていて、何をすればこれに当てはまるのかなという感じで、もう少し現実に沿って言葉を選んでいった方がよいと思います。

村上部会長：ありがとうございます。現実にはどのように言葉を充てるか。これは五

つにこだわる必要はありませんので、四つでも六つでもよいと思うのですが、この五つ目の子どもを第一に考えて、子どもにとっての最善を目指すというところで、もう少し何か具体的なご提案がありましたらお願いします。

定野委員：子どもを第一に考えて、子どもにとっての最善を目指すというのは、足立区の行政だけではなくて、親もということをどうしても入れたいと思います。

渡辺委員：私も教育長と同じ意見で、これが1番目に書いてあったとすると、それはまた印象が変わってきて、それから親が楽しく子育てが出来るまちと言うと、妊娠をして出産をして子育てが始まっていると。一番目に子どもを第一に考えるというのが来て、次に多様性が来て、次に子育てが来て、次に地域が来て、次に社会人までという時系列的な並び方にすると、受ける印象がずいぶん変わってくると感じました。

それからもう一つは、子ども時代から社会人まで一生暮らせるまちというところと言うと、先ほど小林委員から自立とか活躍という言葉があって非常によいと思ったのですが、就労環境をはじめというところまで行くと、先ほどの決算委員会の中で区長答弁がありました。これは足立区の子ども、足立区の人というのは、足立区の中で完結してしまうということがあって、それがいろいろな地域やいろいろな方との接触という意味で言うと少し狭いところがあるのではないかな。もっといろいろな選択肢があってよいのではないかなという答弁がありました。そのようなことを斟酌していくと、就労環境を足立区が整えていくのではないので、これは削除した方がよいと思いました。

早木委員：子どもを第一に考えるということですが、親というのは大体子どものことを第一に考えているものですから、子どもが成長してしまっただ大人とか、子どもとは関係のない人たちもみんなが子どもはまちのものだという考えで育てていくということは、地域力にもつながっていくし、この子どもを第一に考えるという言葉は、親が子どもを考えているだけではない深い意味があると考えべきだと思います。

村上部会長：ありがとうございます。非常に具体的なところが出てきましたが、一つは順番を考えて、時系列的に並べた方がよいというのは、確かにその方が印象が強いと思いました。あとは五つ目の誰が子どもを第一に考えるかというところで、親というご意見と、あとは親だけではなくて、地域とか大人とか親でない人たちも子どもを第一に考えるということをメッセージとして出してよいのではないかなということでしょうか。

早木委員：言葉足らずになってしまいましたが、昔はそのようなところがあったと

思います。地域でよその子でも悪いことをしたら叱るとか、そのようにみんなで育てていくというのは昔はあったと思います。足立区はそういった人情的な昔ながらのところがまだ残っていると思います。そういった地域力というものを打ち出していくのも大事だと思います。

村上部会長：ありがとうございます。なので、五つ目はこれは行政だけではなく、親だけでもなく、地域とかすべての住民がということだということをニュアンスとして入れていった方がよいというご意見かと思います。

志自岐委員：定野委員から親がとか、親の問題とかというのがいくつか言葉として出ていて、ということは親へのアプローチと言うか、そういったものも含めて子ども対策の子ども部会の中で何かやるというような必要性と言うか、そのような意味なのでしょうか。

定野委員：私はそうだと思います。親にきちんとしたアプローチをするというのも、確かにやらなければいけない務めだと思いますし、それは行政だけではなくて地域だったり、PTAの皆さんだったりということだと思います。

村上部会長：今のことは重要な論点なので確認をして、ある程度全体共有を取れるところは取っておいた方がよいと思いますがいかがでしょうか。

志自岐委員：どこまでどうやるかというのは非常にセンシティブな問題で、親に子どもをああしなさいって命令することは出来ませんよね。親として責任が取れないならば、今であれば子どもだけ引き離すとか、虐待があるなら引き離すといったことは出来ますが、ある程度教育ということでは、もちろん必要な部分もあると思います。ただ、今現実には望まない妊娠ということで、子どもが出来ているケースもあるわけです。例えば親と子どもの問題に行政や地域がどうかかわるのかというのは、先ほど地域にあまり縛られるのも嫌な人もいるという話もありましたが、非常にセンシティブな問題で、その辺は私などは少し違和感を感じるころなのですが。

定野委員：今まさにご指摘があるように、親がネグレクトで子どもの面倒を見ないことをどうしようかというのは、まさに行政が手を差し伸べて、要はそのような時代になっているわけです。ではそれをずっとやり続ければよいのかというと、本当はそうではないでしょうと。親や親戚や地域の方やいろいろな方が総合して親はどうしていくのかも一緒に考えないと、これはいつまでたっても広がってしまうばかりで、これは本質が間違っているのだと思います。だから根本をどのようにするのかということを中心に謳った上で、考えた上で、では、今残っている課題についてどのようにするのかということを中心に両方考えておかないという意味です。どち

らか一方をやるという意味ではありません。

河本委員：やはり子どもの将来を考えて、10年後、20年後、30年後の足立区にこうなしてほしいということを考えることがこの会の大前提だとして、するとどうしても子どもにかかわる教育のことを語ったのと同じように、一番身近にいる親ですね。それで実際に現役の小学生の母の私は、とても耳が痛いところが多いのですが、実際に同世代のレベルのお母さんたちと接する中で、例えば非行に走ってしまう子どもたちや、不登校になってしまう子どもたちの中の大きな要因が家庭にあるというのは目に見えて分かっているところがあるので、そこをなるべくなら切り離さないで、子どもにかかわる基本的なそういったあるべき姿を考える面では、やはり親への教育というアプローチも大切な要因だと思います。

渡辺委員：理念のところでお話をしようと思ったのですが、15歳ワークショップの言葉の一番上が非常に心に響いていまして、一人ひとりの生き方を認めてもらいという言葉になっています。それはある意味子どもたちの叫びのように感じるわけで。友達とも仲がよい、家族もとてもよい家族だと。地域の方々と交流もしている。そうでない方について、先ほど野辺委員からも河本さんからもありましたが、そうしたところはやはり親から入って行かざるを得ないと、私も区議会議員として活動していて感じておりますので、そこは触れておくべきだと思います。

岡安委員：この最後の子どもの第一を考えですが、文字の下と言うか、根底に親があればよいのかなと思います。タイトルが足立区の将来像、あるべき姿ですから、そこにわざわざ親まで出す必要があるのかなというのは、非常に先ほどの議論の中で感じています。

もう一つのまとめの方で、右側の真ん中に親への教育ということで、この辺の必要性は委員の皆さんも感じていると思います。先ほど教育長からあった通りネグレクトも多いですし、家庭の中で子どもが本当に第一になっていない、そのような家庭があることも事実です。それが足立にも多いのではないかという危惧もあります。やはりあるべき姿のところでそこまで出しますと、特に女性の子育て経験のある多くのお母様方は、子ども第一で考えていますから、それは違和感があるのではないかと思います。一部は心の病などとか、さまざまな事情から子どもが第2、第3になっているご家庭があるのは事実ですが、それは基本計画の中で、あるいはこのような議論の中で話し合うということで、文言の中に親を入れるのはどうかなと感じています。

村上部会長：これは最後の五つ目のポイントですね。子どもを第一に考えてというところでのことですね。分かりました。

鈴木委員：私も今の岡安委員と同じように思っているのですが、子どもが生まれたら人は親になるわけですが、でもそれだけで本当に親になったかどうかというのは、それからしばらくたったりとか、結局どのようにしてなっていくかということ、子どもを育てながらですし、地域の中で自分が育ちながらだと思います。まさに足立区をどのようにして、少し大げさに言うと、足立全体でどのように変わっていくのかというのが基本構想としてはそのぐらいのことですから。ですから親と限定はしない方がよいと思います。しかも大前提となると思います。いろいろなことをやらなければいけないのですが、そこで何をやるかという時に一番大事なのは、子どもが大事だよというそこがはっきりしていればよいのだと思います。だからそのような意味では、これはこれで、子どもを第一にというのは、本当にこれでは抽象的なので、これをこのまま言うかどうかは分かりませんが、親というのはあえて入れなくてもよいような気がします。

それで、実は多様性と言うか、先ほど志自岐委員から、教育も多様化する必要があるということでしたが、私もそう思います。子どもは結局何で楽しいと言うか、一言で言うとただワイワイやって、人がいると楽しいというだけではなく、小学生や中学生だと、やはり勉強が出来た時だと思います。前回の基本構想を見ると教育、小学校・中学校について非常に具体的に細かく書いてありますね。学校選択の自由化をやりますとか、2期制をやりますとか、ここまで書く必要はないと思うのですが。何かどの子も伸びる教育を進めるとか、勉強をどの子も出来るようになるとかですね。あとは居場所があるとか、そのようなことを少し盛り込んでいけるとよいと思います。

村上部会長：今のご意見は、二つ目の文章の中に何かそのような要素が入れられないのかと思いました。今おっしゃっていた居場所とか、あるいはさまざまな子どもの力を適切にと言うか、その子に合った伸ばし方をするといったことを入れられると思いました。

私は親のことについては、皆さんおっしゃっていることはそれぞれに非常に説得力があると思うのですが、一見別のように結び付いているので気になっているところがありました。教師の負担というのは前回ずいぶん話題になっていたのですが、この中になかなか入れられていませんね。これは今までの議論を総合すると、親とか教師とか地域の人々が子どもに向き合えるような環境をいかに行政が整えるのかという視点が少し薄い気がしています。今の親の役割というところでも、あまり行政が親子関係にあれこれ書いてしまうことの危惧はもちろんあるのですが、それは一方ではサポートというのを行政はしなければいけないわけです。大人に対するサポートをですね。その親や教師、あるいは地域の人々が子どもに向き合えるような、時間・場所も含めて環境を作るというのを、やはり将来像として少し入れてもよいと個人的には思いました。その辺も含めて、もし何かありましたらお願いします。

岡安委員：個人的な意見が強すぎて、皆さんの議論によってどのようにでも料理していただいて結構なのですが。個人的に笑顔で、とか可能性という言葉が好きでして、夢も好きなのですが、3番目に夢というのが入っています。例えば笑顔というものが、安心して親が楽しく子育てが出来るところに入れられないかなと。親子で笑顔で過ごせるまちとか、あるいは可能性というところでは、順番は変えた方がよいとは思いますが、今は一番上にある多様性のところに、子どもは無限の可能性があると私は信じています。その無限の可能性を引き出せるとか、可能性というのを入れるとより良くなるのではないかと思います。

村上部会長：笑顔・可能性というのをキーワードにということですね。基本理念とか将来像というのは、ある程度そのようなイメージと言うか、明るいイメージを作ることは大事だと思います。

志自岐委員：教師の負担と言うか、学校の負担と言い換えてもよいと思うのですが、多様性の中で先ほど言った教育の多様性の中で、学校以外にある部分を負担してもらおうということがあれば、学校の負担が多少軽くなるということと。あとはこれ地域も、いわゆる町会・自治会的なものもちろんあって、ただもう少し地域横断的なものとか、縦横緩やかなネットワークだったりとか、新しいネットワークだったり、あとは今大学もいくつかあるので、そのような大学とのネットワークの中で、学習塾とか学校では教えない超最新の知識とか研究で、子どもが面白いようなものですね。例えば大学との連携とかそのようなことも含めて、いろいろな形で。あとは部活なども例えば地域の少年スポーツ団とか、そのようなものとの絡みとか。あるいは、地域にいるスポーツ指導者の人とか、そういったいわゆる個人であったり団体であったり、いろいろな組織・仕組みなどをうまく子どもを中心にネットワーキングしていくという形も作れたらよいなと思いました。

村上部会長：ありがとうございます。これは2番目のさまざまな主体というところで、もう少し従来のイメージを膨らませた方がよいというご指摘かと思います。ここをどのぐらい具体的に書くかは検討させていただきたいと思います。

鈴木委員：座長から教師の過度な負担ということで、それはその通りだと思います。小学生・中学生が一番多く過ごす時間は学校で、ここでいろいろなことが起きるし、ここで育つし、昔なら出来ない子がいると先生が夜遅くまで残して勉強を教えたとか、そんな先生が忘れられないとか、そのような話は最近あまり聞きませんね。多分忙しいからだと思うのですが、そこら辺は別にして、やはり先生が時間があって子どもに目を向けることが出来れば、やはりそこで子どもの人格も育つし、やはり勉強が出来るようになった時に喜びをすごく感じるような気がします。

もう一つ別の観点で言うと、子どもの貧困のことを別枠でという提案もあって、

それもよいと思うのですが、やはりこれだけどの分野にも子どもの貧困が横たわっている気がします。子育てを楽しめるようになる上でも、貧困を解決していかないと楽しめないです。しかも足立区として、子どもの貧困対策をこれから大いにやっっていこうというわけですから、やはりあなたは貧困なのだよということを言っはいけないのだけれども、何か子どもの貧困対策を進める上で、豊かなでもないですが、伸び伸びと暮らせるまちというようなところ。その中に先生方もじっくりと子どもに向き合えるというのが、同じところに入れなくてもよいのですが、何かそのようなイメージ、視点がどうしても必要だと思いました。

村上部会長：ありがとうございました。今までのところをまとめておきますと、まずは将来像の順番については、やはり時系列で並べるというのは非常に読みやすいし、印象が湧くかなと思います。あとは親が安心・安定出来るような子育てとかですね。あとは多様性については、子どもの多様性だけではなくて、教育機関とかチャンネルの多様性であるとか、あとは大人の側とか地域の側の子ども以外の多様性というのもあるとか。あとはその可能性とか笑顔という言葉を入れるということであるとか、あるいは大人になって住めるだけではなくて、自立して活躍出来るというところであるとかですね。それから、さまざまな人たちが向き合える環境を作るというところとか。その他には比較的皆さんに合意をいただけるのではないかなと。あとはノーマライゼーションのところですね。障がい児とか特別支援のようなところもニュアンスとして含めるというところは同意をいただけたと思います。

表現が若干難しいのは、貧困とか親の問題というのは必ずやはり必要である問題なのですが、スティグマの話とか、行政が親子関係についてどこまで規定をするかという難しさもあって、しかし文言には出さないけれども、やはり文章の中にニュアンスとしてはそういったものを念頭に置いた表現をするというところは、割と皆様共通しているし、大事なところなのかなと思っています。今のところまとめると、このようなところが原案に付け加えるところかなと思います。

それ以外に入れてほしいものとか、考えた方がよいという点がありましたら。あるいは他の部会に対してどこを重点的に子ども専門部会として推していますということを言った方がよいのか、そのあたりの意見をいただければと思います。

渡辺委員：少し先の話になって恐縮ですが、子ども部会があった後全体会があって、子ども部会はくらし部会ともかかわりがあるでしょうし、まちづくりともかかわってくるでしょう。それから、基本構想のボリュームの中で、部会の意見や考え方、議論の過程がどのように載せられるのかによっても違うと思います。基本理念があって、あるべき姿があって、それが基本計画を作る前の検討素材として意見がどのように反映されるかという中で担保出来るのであれば、そこで考え方も変わってくる気がします。

村上部会長：ありがとうございます。これはなかなか難しいのですが、一見抽象的でもこれが基本計画とか施策にじわじわ効いてくると思っています。やはり大事なことで、どの辺を全体会の中で特に重視して押し出していくのかというのは、もちろんボリュームとかもあるのですが、ある程度もし委員の中で共通理解があるのであれば、ここで共有しておいてもよいのではないかと思います。文言次第で変わる場所もあるのですが。

岡安委員：右下の文言もかなりよいですね。下の区民あだちサロン及び中高生ワークショップの足立区の将来像のこの五つも決して引けを取らないよい表現になっていると思います。今渡辺委員が言われた通り、これぐらいのボリュームでよいのではないかとと思うのですが、全体として。

村上部会長：ありがとうございます。今このようなご意見がありました。私もこれぐらいかなと思いつつ、しかしまだもしかしたら大事なところとか、六つ目を付け加えるのもありかもしれません、今おっしゃったぐらいのボリューム感でこちらとしてはいかがかなと思っております。

少し時間が早いのですが、今将来像のあるべき姿というのは、大体アイディアとして出てきて、論点もいくつか親とか貧困問題とか、さまざまな見方も出てきましたので、それを踏まえて少し基本理念の方を。これもっと短い言葉になるのですが、基本理念といったところでこのようなフレーズであるとか、このような理念を前面に押し出すと非常に将来像が引き立つとか、そういったところがありましたらぜひご提案をいただければと思います。今出てきているのは、多様性・地域力、それから説明はないのですが、関わり合い、助け合い、つながりといったところになると思います。

（２）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念）まとめ

村上部会長：例えば今まで割とフレーズ的に出てきたところとしては、可能性であるとか、あるいは安心とか安定、もしかしたら反省という言葉もあるかもしれません。そのようなものがあつたのですが、これはアイディア的に出していただいてこれというのがあれば基本理念として入れていってもよいと思うのですがいかがでしょうか。

鈴木委員：理念、あるべき姿というところで言うべきことだったかもしれませんが、やはり子どもが育つ上で親の背中を見て育つということで、この多様性とか地域力という、いろいろな多様な手段とか、あるいは地域力・文化といったものが入っていますが、やはり親が働いている姿と言うのでしょうか。足立区は結構ものづくりが多いですから、そのような多様性・地域力、関わり合いでもないし助け合いで

もないのですが、何かその辺のものが入るべきではないかと思います。

村上部会長：皆さんとイメージを共有しながら、このままでもよいですし、何かよいものがあれば、設定してもよいかと思うのですが。他にいかがでしょうか。

渡辺委員：基本理念の2行目、どのような環境に置かれた子どもでも、というものの後に、中高生ワークショップの言葉、一人ひとりの生き方を認めてもらい、自分らしさに向けて取り組むのがよいと思います。

村上部会長：ありがとうございました。これはやはり中高生ワークショップの提言は非常に重要なので、どこかに入れられたらと思うので、今のご意見も非常によいと思います。

岡安委員：少し細かいのですが、多様性を育てる親にという1行目ですね。例えば祖父母が育てる家庭もあるわけで、保護者という言い方がよいのか、変えられた方がよいと思います。それから、先ほどの可能性というのがここに入れられないのかなと。チャレンジ出来、可能性を引き出すとかですね。

村上部会長：確かに親というのは限定が強すぎるかもしれないですね。少し検討をした方がよいという感じがします。主語はあえてなしで、例えば育てるための多様な手段とか、育てる主体というのは、家庭の事情で多々あると思うので、あまり主語を親としなくてもよいかなと思います。

鈴木委員：例えばこの基本理念で多様性、地域力はよいと思います。で、三つ目にこれと同じぐらいの大きさで、可能性というふうにして、そうするといろいろな多様性だとか地域力も活かしながら、その子どもの可能性を引き出していくそこに親の姿を見ていて、あんなふうになりたいとか、ああいう仕事がしたいとか、そのようなことも出てくるでしょうね。言葉で言えば、地域力とか多様性があるし、可能性も引き出せるということかなと思います。

村上部会長：事務局にお尋ねしたいのですが、基本理念って単語であればよいのですか。多様性とか。それは例えば多様性を育てるとか、多様性を尊重するとか、それはどのようにすればよいのでしょうか。

基本構想担当課長：出来ればフレーズとか文章がよいのですが、無理であればキーワードという感じです。

村上部会長：そうすると、可能性という言葉であれば、可能性を引き出すというふ

うにして、ここはもしかすると例えば多様性を尊重するとか、地域力を活かすとか、そのようなフレーズの方が考えやすいかもしれないですね。

早木委員：先ほどの二つの多様性・地域力にこれだけの文言が書いてあるのに比べて、最後の三つがあまりないので寂しい感じがするのですが。それに加えて、この三つの言葉が何か共通項が多いような気がして、一つにまとまるような気がします。関わり合い助け合うつながりといったものになるのではないかと思います。

村上部会長：ここはまとまりを付ける、印象を強めるという意味で、関わり合い、助け合い、つながりというものを何かまとめたような理念というのが考えられると思います。

この辺は具体的に思い付かなければ、私に一任していただければ何かを考えることも可能です。もし何かあればご提案をいただければと思います。

定野委員：今の三つを包含する区の施策というと絆ですね。

村上部会長：ありがとうございます。絆を作るとかそのような感じでしょうか。

志自岐委員：絆というのもありだと思うのですが、ネットワークとか。地域力の地域という言葉からすると、ある程度何か足立区全体と言うよりは、住んでいる近辺のイメージが強いのですが。なので、もう少し包括的な広がりを持った関わり合いのようなことで。あとは可能性というのもあったのですが、将来性と言うのでしょうか。将来想像と言うか、それは子どもが自分の将来を自分で作っていくというのもあるし、足立区の将来をというような意味合いもあると思うのですが。どこかで未来を見据えてといった、可能性というのはそのようなことかなと思います。

村上部会長：今のご意見は、地域力よりもネットワークというイメージということでもよろしいでしょうか。狭い意味での地域だけではなくということですね。あとは、可能性の中には将来性とか、将来作るというようなこともあってよいのではないかと思います。そういったものをどのように表現するかというのは、もし時間が今日難しければこちらで検討させていただきますが。地域も大事なのですが、もう少し広い意味でのネットワークというものも、将来の足立区にとっては非常に重要なところだと思います。

地域力とネットワークというのは、情報を入れた方がよいのか、どちらかをどちらかの文章の中に入れた方がよいとか、具体的にはなかなか表現が難しいのですが、両方やはりニュアンスとしては基本理念の中に、地域も大事だけど、もう少し広い意味のネットワークというものもきちんと考えなければいけないということは盛り込んだ方が理念としてはよいと思います。狭い地域だけではなくてですね。

他にこういったところが理念としてあった方がよいのではないかということがありましたら。

定野委員：将来性・可能性と色々な言葉が出ているのですが、例えば創造力とか、将来とか、夢とか希望ということになると、どうしても創造を入れてみたいと思います。

村上部会長：下の三つは文章がないので、これは作った方がよいと思いますので。その可能性とか将来性の中に創造性とか夢とか希望という言葉を入れてもよいということかと思います。

渡辺委員：今の志自岐委員のご意見を活かすとする、地域力を活かすの1行目。子育てにおいて地域の人々の協力を得られるよう、このつながりという言葉为例えさまざまなネットワークを強化するという書き方もあるかなと思いました。

村上部会長：志自岐委員、いかがでしょうか。子育てにおいて地域の人々の協力を得られるようさまざまなネットワークを強化するということでどうかという提案ですが。

志自岐委員：地域の中でのつながりのようなものはあるのですが、もう少し広い意味で、例えば足立区ではない人ともつながるぐらいの、そのようなルートもきっと必要と言うか、一部にはですね。それもあり、といった、つながりの中には本当にいろいろあって、子どもの世界って多分、特に小学生ぐらいだと町内会とか、自分1人で遠くまでは行けないわけですから、本当に身近なそこに住んでいるその場の地域でどのように見守っていくかのような、本当に近いところの力が非常に大事だと思います。更にもっと中学生・高校生ぐらいになった時には、その地域と言うよりは、もっとそこを飛び出して広いところで可能性を模索して、もっと広いネットワークでと。そこのところにやはりNPOだったりが入ってきて、子どもの学習支援などももう少し別の形の学習支援のようなものなどがありかなと思います。

子ども部会はこれで最後の集まりですが、今いろいろ文言をやっているのですが、何か、みんなで本当に悩んで、頭が悪くても貧乏でもとにかく自分で生きていけて、それが足立区のためになってくれる人になってほしいというのを、何かみんな必死になって考えなければならない段階だなと。そのことを何かどこかに入れてほしいなと思います。

村上部会長：ありがとうございます。非常に私もそう思います。真剣に皆さんお考えになっていて、いろいろな意見が出てきているので、その思いがどこかに入らないかなというのは考えます。

鈴木委員：今の志自岐委員のイメージは、関わり合い、助け合い、つながりのあたりを一つにくくると、ネットワークではないかということなのだと思います。例えば私が可能性というのを出しました。そうすると、それぞれ大項目を起こすと四つぐらいになるわけです。あまり理念が多いと長くなりますから、とにかくせいぜい三つぐらい、増やすとしても三つぐらいにくくれるようにして、やはり多様性を尊重する。地域力を活かすというのはよいと思います。例えばその中に郷土愛が入っていますしよいと思うのです。ですから、2番目にいろいろ出ている可能性とか将来性とか想像力とかネットワークとか、何かまさに足立区を良くする、足立の子どもたちを何とかまさに将来立派にと言うか、そのような思いで、それをやればよいなと思います。

渡辺委員：今皆さんの話を伺っていて、以前小林委員がもっと夢のある話をしようとおっしゃったご意見を思い出しました。足立区の子どもたちが世界に羽ばたいていただけるような、そうしたもっと広い文言が2～3行あってもよいのかなと今感じ始めました。

岡安委員：先ほどの志自岐委員のご意見は大事な視点でして、ただやはり項目を増やしていくと難しくなると思いましてですね。いろいろ考えて、多様性のところに入れられないかなと。先ほど村上先生からも、育む側の多様性も重視して、さまざまな子どもに対応して大切に育てていくという視点が大事だと。そのような意味では、さまざまな先ほどNPOとかNGOとかそういったものがあると思うのですが、いろいろな地域を越えた子どもを育てる支援のネットワーク。そのような意味で、多様性を育むというところに、子どもを育てていくということで、そこに入れても大丈夫かなと思いました。

村上部会長：ありがとうございます。三つはすっきりする気がしますので、あえて言えばつながりも含めた多様性ということと、あとはつながりそのものが地域力とか、地域の外とのネットワークとか、さまざまな人たちのつながるとかというのが二つ目。これ多様性というのは、つながりにも入ってくるのですが、両方に関連はするのですが、一応別ものとして一つは多様性だと。もう一つはつながりとかネットワークというもので、これは地域も入るし、地域の外も、足立区の外も入るような概念だと。三つ目は、将来性とか可能性とか夢とか希望というのを引き出すというのが、今の議論を踏まえて三つぐらいの要素にまとめるとそんな感じになると思います。

岡安委員：今先生がおっしゃった通り、私先ほどのあるべき姿で夢というのが3番目に入っていて、夢という言葉も理念に入れてほしいと思っていたので、一つの項

目に希望とか夢、そういったフレーズが入るというのは、非常に区民の皆さんが読んだ時に明るい気持ちになるとか、前向きになれると思いますので大賛成です。

村上部会長：忌憚なくご意見を出していただければと思います。いかがでしょうか。

村上部会長：あと 15 分ぐらい残りありますので、あとは基本理念と将来像で、今は基本理念中心で話を進めて、こちらでも三つぐらいの要素にまとめたのですが、それも含めて、それから元に戻って将来像のところも含めて総括的に 15 分ぐらい議論が出来ればと思います。今までのところの議論で、何かご感想とか、この部会は今日最後になりますので、その総括とか、そういったものがもしあればお願いします。

志自岐委員：基本理念が出たのですが、このメンバーでは、例えばこれがどんな、具体的には例えばこんなものやこんなものやこんなものを内包しつつあるのだよというのは分かるのですが、これを言葉だけポンと出されても、受け取った方は何なのこれ？ と。非常に抽象的な気がしてしまうと思います。ここでこんな話をした結果がこれなのだというのは出るのでしょうか。

村上部会長：これは私がプレゼンをするのでしょうかということですね。

基本構想担当課長：現時点では 12 月 2 日の全体会。第 4 回で牛山会長が集めるわけですが、その中で各部会長から説明をしていただき、四つが並んだところで、また皆様と議論をしていただくことになります。別の話ですが、皆様の意見というののも何らかの形で残していきたいと考えております。

村上部会長：ありがとうございます。第一義的には私がニュアンスをうまく伝えないといけないということなのですが、どれぐらいうまく全体会でお話出来るか分からないので、もし援護射撃等出来るようでしたらぜひよろしくお願いいたします。

今までこの議論というのは、非常に一見他者には抽象的なのですが、その裏にはこのようなさまざまな議論の積み重ねの成果があるので、それを出来るだけ他の部会の方に伝わるようにお話が出来ればと思います。

他にいかがでしょうか。今将来像が五つほどと、それから基本理念は三つぐらいという感じでグルーピングがされています。これからすると、子ども専門部会としての案になるかなと思います。一つ目は下の方が将来像になりますが、一つ目が多様性とか無限の可能性といったものを含めて。順番は。

地域計画連合：新しい順番がこちらになります。

村上部会長：まず、お手元で言うと、5番目の子どもにとっての最善のまちをまず目指すのだというのがポンと来て、二つ目がその上で多様性を大事にする。これは無限の可能性とか、あるいは子どもだけではなくて、教育をする側の多様性とか、あるいはつながり方の多様性のようなものを大事にするのだと。その上で、楽しく子育てが出来るような、安心・安定して子育てが出来るようなまちにしましょうということですね。その上で4番目。地域が網の目のように結び付いて子どもを支えて、それから地域だけではなくて、個人や組織がネットワーク化して、その子どもを支え育んでいくと。最後がその上で子どもが社会人になって自立して活躍出来るようなまちを作りましょうというのが将来像の流れになります。全部で5点今大きな柱があります。

で、その基本理念としては右側になりまして、ベースになるのは一つは多様性、これは多様性を尊重するとか、多様性を認めるとか、そういった表現になると思います。子どもの多様性、あるいは育てる側とかさまざまなネットワークの多様性というものをまずは重視することを理念として掲げる。二つ目が地域だけではなくて、地域はもちろんなのですが、地域内外のより広いネットワークとか絆というものを活かして子どもを支えていくというもの。三つ目が、やはり可能性とか将来性とか、夢とか希望を引き出すようなそういった前向きな目標を掲げて、その将来像の議論と言うか、提示したのだということで、可能性とか夢とか希望・将来性というものを引き出すということを三つ目の理念というふうに今までの議論をまとめたものになります。

これを今まとめていただいて、非常にクリアに図示されているので、これをご覧になった上で、もう少し何かあればということであるとか、あるいは時間も徐々になくなってきているので、この部会の全体の感想のようなことでも結構です。

定野委員：多分順番とすると基本理念の考え方があって、あるべき姿はこうですよという順番だと思います。その基本理念を持ってきた背景とは何かというのがないといけないと思います。簡単に言うと少子高齢化でしょうけれども、それだけではなく、例えば10年後、20年後、今ある職業の半分はなくなってしまうという変化を見ると、今の将来の夢や希望や創造や多様性というのはとても大きいと思います。そのような何か一つ背景があって、この基本理念が出てきて、将来像がこうだというのがよいのではないかと思います。

村上部会長：今ご提案をいただきましたが、これは図の上では将来像が来て、矢印がこちらになっていますが、ラインとしては多分基本理念があって、そこから将来像が出てくるという考え方になり得るのかなと思います。

定野委員：最初に貧困だけを持ってこないでねというのを言いたいわけです。

村上部会長：今までは割と左から右という流れで議論をしてきて、多様性とかつながりとか、可能性・将来性のようなものを理念としてよいかなという議論だったのですが、ではどのようにしてそれが大事だと我々は思ったのかというのを改めて考える機会なのではないかと思うのですが。

渡辺委員：答えはないですが、基本理念にサブタイトルを付けるようなイメージでしょうか。

村上部会長：そうですね。もしそれが出来るなら。ただこれは一言なので難しくて、今思い付くのはなかなか大変かもしれませんが。一つは私自身が議論をしてきて非常に感じたことは、1回目にも申し上げたのですが、やはり具体的な話になると非常に一人ひとりの子どもや親を見ていると言うか、さまざまな状況の子どもさんがいることを踏まえて、その子たちをどのようにするかということに非常に目が行っていると言うか。伸びる子だけ伸ばせばよいのだというのではなくて、本当にいろいろな状況にある子どもを本当に丁寧に育てていこうというのは、私は皆様の議論を見ていて非常に強く印象があったので、そこはやはり足立区と言うか、基本理念のベースに皆さんはあるのではないかなと。どんな子どもにも可能性があって、多様なものだけでも、それをつながりを活かしてそのようなさまざまな状況にある子どもさんに夢や希望を与えていくまちにしたいのではないかということを思いました。

今の世の中の流れとしては、テストで点数で切って、とにかく出来る子をどんどん育て、グローバル競争に勝てて、出来ない子はうーんといった感じのところがあるのですが、そういったものとはかなり違う、よい意味で異質な考え方をお持ちなのだなということを感じました。これはベースとしてはやはり多様な子どもをみんな育てようという、結局抽象的な言い方なのですが、ベースとしてあるのではないかと思います。

野辺委員：その中に一つ、いきいきとした子どもというのを入れてほしいと思います。

村上部会長：いきいきとしたというのは、これは三つ目ですか。そこにいきいきとした子ども。夢や希望というのはいきいきした、非常に可能性を感じるということで。希望を持つというのは、いきいきするための条件だと思うので、あえて言うと文章の中にいきいきという言葉を入れた方がよいと思いました。

野辺委員：本当は先ほどの親が楽しく子育ての出来るまちというところで、最後のところに子育てを楽しめるようなところを、いきいきと子育て出来るようにしてはどうかと思いました。

村上部会長：いきいきと子育てが出来るようなまちを目指しますということですね。いきいきとというのがあると、何かアクティブなと言うか、動的な感じがしますので、入れるということで。皆さんもご異論がなければ、いきいきというのは将来像の中に一言入れておきたいと思います。

志自岐委員：背景があつてということなのですが、言葉としては出てこなかったのですが、やはり将来このままでどうなるのだろうという不安と言うか。例えば日本も含めての足立区ですが、やはりどこかでどんどんとグローバル競争にさいなまれていく中で、どのようにして私たちは生きていったらよいのだろうかというのは、つまり子どもはどんなふうに育ったらよいのだろうかというようなものが何となく通奏低音のようにずっと流れていたような気がします。そのような不安と言うか、その中でいくつか出した答えが、やはり親は分からないし、今いる先生も分からない。世の中の先行きがどのようになるか分からないと。今分かっていることは、この子がどんなすばらしい芽があつて、それを伸ばしてあげることしか未来に手渡していくものはないのではないかというような基本的にベースがあつて、だから多様性とずっと言ってきたのかなと思います。

だから、厳しいのだけれども、世の中はどんどん経済的な状況は厳しくなっていくのだけれども、その中で一人ひとりの可能性にかけていくしか私たちにはないなという、その結果がこれだったのかなと。このような考え方が理念に入っているのだと、何かそんな気がしています。

村上部会長：ありがとうございます。あとはやはり安心・安定という言葉が出てきたのですが、そういったさまざまな多様な環境の中で、安心・安定して親御さんや地域が子育て出来る環境というのも、この基本理念の底にはあるし、特に親御さんとか、PTAのお二人からは安心・安定というのは非常に重視されるのかなと思いました。あともう5分ぐらいです。もし何かあれば。

岡安委員：やはり先ほど先生が言われた通り、これ実際に議論は左から始まって右上、右下、基本理念に今来ましたが、実際に表現する時は逆で、今度は理念から始まって、あるべき姿になり、多分左は今度は計画の方の話になるのでしょうけれども、こうなっていくのだろうというところでは、非常にすばらしい流れで議論が出来たと思います。

特に基本理念は、この3番目のかわり・助け合い・つながりというところが全部ひとかたまりになって、ホワイトボードの右側の可能性のあそこの丸になっているのですが、ここは文章がないものですから、まさにここはしっかりとした文章を、事務局中心に作っていただいて、また多様性や地域力のところもこれは3行ずつありますが、更にブラッシュアップしていただいて、背景が感じ取れるような文章に

なっていけば、見た人も分かると思いますのでよろしくお願いします。

村上部会長：ありがとうございます。今までの議論を踏まえて、理念の背景をうまく紹介して入れたいと思います。

河本委員：最後の部会ということで感想とお礼になります。実際にとっても3回で大変勉強になりました。そもそも論を言うといけないとよく言われるのですが、日本は社会福祉が世界から見て大変遅れていて、ここでこれだけの濃い議論が出来て、これをそっくり日本の国会に持っていったらどうかと思うぐらい基本的な日本の国のあり方とか、福祉のあり方とか教育のあり方というのが決まっている中で、足立区としてどこまでこれが活かせるのだろうというところが、これからの基本計画を立てる上で行政の方が大変苦労していくところだと思います。

ただ、やはりこうやって私たち現役の父母がいるようなところで、現状の多くの足立区民の声を聞いてくださるようなこの会議が、出来れば一つでも多く基本計画に盛り込まれて、ぜひぜひこれから生まれ育つ子どもたちが少しでも誇りを持って、僕は足立区生まれだよと言えるような足立区になってくれればよいなと思います。ありがとうございました。

村上部会長：ありがとうございます。

鈴木委員：ずっと議論を聞いていて、子どもたちを思い浮かべながらいろいろな意見が出ていて、おそらく出されたことは、これが全部実現すると、とても優しい思いやりのある子どもたちが足立区にはいっぱい出来るのかなと思うのですが。ただ、言葉としては入っていないので、それを入れた方がよいのか入れない方がよいのかというのはありますが、ずっと最後の段階で思っているのがそれが一つです。

そして、もう一つ具体的な施策で、本当に多様性を尊重すると言ってもなかなか施策が伴わないと尊重出来ないですし、実際にその辺がどのように活かされていくのか、やはり子どもの貧困といういろいろなイメージがあると思うのですが、今苦しい場面に置かれている子どもたちをどのように救うと言うか、子どもたちの可能性を引き出していく上でも、相当な施策が必要だろうと思います。その辺がどのように活かされていくのか。先ほど先生は全体に含めていくのだとおっしゃったので、分かるような形で盛り込んでいただけるとよいなと思います。

最後に、子どもたちが元気になるということで、うちの町会もそうですが、子ども会が消滅状態で、活発な活動がされていないのですが、地域で子ども会があって、ワークショップを見ると子どもの声が聞こえるまちというのがありますね。本当にそのようなまちになるとよいなという願望があります。ありがとうございました。

村上部会長：ありがとうございました。よろしいでしょうか。では、今まで議論を

させていただいて、ほぼ方針は固まっているのですが、具体的な全体会に報告する上で必要になるような作業については、具体的な作業については私に一任をして進めさせていただければと思いますよろしくお願いします。

(異議なし)

村上部会長：ありがとうございます。では私の方で本日の審議結果を次回全体会でまとめて報告をさせていただきます。本日は本当にどうもありがとうございました。おかげさまで、私も拙い司会だったかもしれませんが、皆様のおかげで非常に実りの多い議論になったと思います。このような理念とか構想を議論するというのは、意外となかなかないことだと思います。細かい話とか、実際の話、具体的な話をすることはあっても、こういった理念とか大事な話なのですが、こうやってじっくり皆様方とお話をする機会が出来たというのは、非常に有意義なことで重要なことであったと思います。これが後々の足立区にじわじわと効いてくるのではないかと感じております。皆さん、本当にどうもありがとうございました。次回の全体会もどうぞよろしくお願いいたします。

2 事務連絡

基本構想担当課長：事務局から次回の全体会の開催についてご連絡です。次回は12月2日の水曜日、午前10時から12時となっております。会場は本日と同じです。なお、もしもご欠席となる場合には、これまで同様に電話やメール等で事前連絡いただけると幸いです。本日は誠にありがとうございました。机の下など忘れ物等のないようお気を付けてお帰りいただければと存じます。また、お車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お知らせください。ありがとうございました。

午後4:00 閉会